

# 閉経5年後に出血

Q 50代後半の女性です。5年前に閉経しましたが、3カ月前からしばしば性器出血があり、時々血の塊があります。体形は肥満気味で糖尿病があります。どのような病気が考えられるのでしょうか。

A 閉経後の不正性器出血の原因には主に萎縮性と腫瘍性があります。萎縮性では、閉経に伴い卵胞ホルモン（エストロゲン）が欠乏するため、子宮頸部や膈粘膜の萎縮性変化が進み、出血しやすくなるのが特徴です。その結果、下着との摩擦や排便・排尿後の清拭などで出血します。加齢現象であり、感染者のごく一部に頸がんが発症します。浸潤がんの好発年齢は40代ですが、近年若年化の傾向にあります。頸がん検査を定期的に行っている場合は、前がん状態で発見されるのが一般的です。治療は手術、放射線治療、抗がん剤などが、糖尿病、高血圧、肥満などの生活習慣病との関連があります。

腫瘍性には、子宮の下部にできる頸がんと上部にできる体がんが該当しますが、二つは全く異なる性格をもっています。

③

## 子宮体がんの検査を



大和田倫孝副院長

便・排尿後の清拭などで出血します。加齢現象であり、感染者のごく一部に頸がんが発症します。浸潤がんの好発年齢は40代ですが、近年若年化の傾向にあります。頸がん検査を定期的に行っている場合は、前がん状態で発見されるのが一般的です。治療は手術、放射線治療、抗がん剤などが、糖尿病、高血圧、肥満などの生活習慣病との関連があります。

頸がんの原因はヒトパピローマウイルスの感染であり、感染者のごく一部に頸がんが発症します。浸潤がんの好発年齢は40代ですが、近年若年化の傾向にあります。頸がん検査を定期的に行っている場合は、前がん状態で発見されるのが一般的です。治療は手術、放射線治療、抗がん剤などが、糖尿病、高血圧、肥満などの生活習慣病との関連があります。



イラスト/ 仲田育代

SHIMOTSUKE GRAPHICS

50代であり、進行は比較的ゆっくりで、半数以上がI期（体部に限局した状態）で診断されています。症状の多くは不正性器出血ですので、50歳以上で出血があれば体がんの検査も勧められます。治療は子宮の摘出が原則で、進行するにつれて抗がん剤や放射線治療を追加します。

頸がん、体がんともに検診により早期がんで発見することが可能であり、その結果、治癒率も良好です。質問者の場合、年齢および生活習慣病の合併があることより体がんの可能性がありますので、お早めに精密検査を受けることをお勧めします。

（副院長・産婦人科部長 大和田倫孝）  
（第2、4木曜日掲載）

健康の不安や疑問について、読者の皆さんの質問を募集します。症状や経過をなるべく詳しく、その人の年齢、性別も書いてください。投稿者の住所、名前（ペンネーム可）、年齢、

性別を記入し、〒320-8686 下野新聞社くらし文化部「健康 110番」係へ。住所不要。FAX (028・625・1185)、メール (platina@shimotsuke.co.jp) でも受け付けます。

life

くらし

